

(1)前半、「地域日本語教育にまつわる施策から、求められる人材の今とこれからを知っておこう」はいかがでしたか。(回答 63 件)

よい 55

ふつう8

あまりよくない0

(2)前半の感想をお願いします。

- ・ナガイサさんの取り組み、参考になりました
- ・日本語教育の幅の広さを知りました
- ・多文化共生の理解が深まりました。
- ・マインドセットの切り替え、子供の権利・義務がない
- ・それぞれの方の熱意が伝わってきました。行政の方は数字の提供がありわかりやすかったです。できれば、90 分に 1 回程度休憩があれば助かります。
- ・文化庁や浜松市が行っていることについてよく知ることができました。新たに知ることも多く、今は日本語教師の資格がないのですが、取得してみようかなと思います。
- ・事務局の松本さんの意見がとてもよかったです。
- ・浜松市外からの参加のため、浜松市の現状を知ることができ、先進的な取り組みに多くを学べたとともに、自分の地域でも前進できることは何かを考えるきっかけをいただきました。ありがとうございました。
- ・時間を間違えて、途中からの参加となりましたが、浜松市や全国的な動向を知ることができて非常に良かったです。
- ・フィリピンナガイサさんの思いや行政の担当者の方々から直接お話を聞く機会をいただけてとても勉強になりました。
- ・勉強になりました、浜松市の先進性には目を見張りました。
- ・日本語を勉強したいと思えるモチベーション、大学へ行きたいという希望、印象的なシーンが多くありました。ありがとうございます。生活がしやすい、コミュニケーションが豊になるための言語習得、今後注力していきたいです。
- ・とても興味深い内容でしたが、休憩時間をもう少し多めにとっていただけたらと思いました。3 部構成 10 分休憩とか。
- ・ナガイサさんの活動、日本語教育がとてもきちんと行われているのに感心しました(特にポートフォリオなど)。文化庁のお話は複雑で理解が難しく、また現場との隔たりが大きいように感じました。後半のお話にあった韓国やドイツのような実現可能で明確な方針を定め、それに向けて進めていただきたいと思います。
- ・新しい情報が詰まっていたので助かりました。何より、ナガイサが現場を担当する団体ではなく、ハブの役割を担っていること、参画している皆さんの属人的な魅力の持ち寄りで信頼を得てきたのだと感じました。

- ・日本語教師という資格をお持ちの方がばかりが地域の日本語教育に携わっているわけではなく、むしろ、そういった知識のない方が多い感があります。うちの地域はそういった方が多いのですが、反対に、現状抱えている問題を解決するというよりは、できれば「交流」に重きを置いている方は多いです。ボランティアの「高齢化」も進み、今後どうしていくのが良いのか問題は多いですね。今日は色々な立場からのお話が伺えて、大変有意義でした。ありがとうございました。
- ・貴重なお話ありがとうございました。レジメを送付していただきましたら、分かり易かったです。
- ・フィリピンナガイサさん、市、文化庁の、それぞれの立場からのお話が聞けてよかったです。私は地域のボランティア教室では活動しておらず見学に行っただけなのですが、日本語教育について勉強していない国語の先生が文法積み上げの教科書を使って困っていたり、「なぜ勉強に来ないの？」と怒っている方もいて、なんか違うなあと感じていました。ボランティア教室の存在意義を考えてほしいと思いました。
- ・私は浜松市内の NPO の講座を受け今年の春に外国人子ども支援員の資格を頂いたものの、コロナ禍でその先の活動がまだない状況です。今だから出来る、このような報告を、活動再開されましたら活用出来るように生かしていきたいと思いました。
- ・多くの資料などから、現場の現在の状況がよくわかり、とてもためになりました。私の会社でも、たくさんの外国の方が働いており、仕事の現場での共生について考えさせられました。
- ・地域日本語教育だと、ボランティア団体ごと、担当の先生ごとでやり方が様々で、団体共通の理念のようなものが見えず、やりにくいな、もっと話し合いたいなと思っていました。フィリピンナガイサさんのようにポートフォリオがあるといいなと思いました。
- ・半场先生、古橋様、松井様、松本様のそれぞれのお立場からのご意見が大変興味深く、参考になりました。グレイスさん、エヴァさん、アバスさんからの「行きたくなる日本語教室とは」についての生の声も忘れがたいものでした。
- ・半场さんのナガイサの活動についての報告、並びに現在のキャリアコン研修からの学びとからメタ話しはよくわかりました。松本さんが、日本学校や研修センターと地域の日本語教室を考えると、考え方を変えなくてはいけないという話しは、実際自分ができていなかったかもしれないと思った。もう一度考えてみる必要があると思う。
- ・公認日本語教師資格について議論真ただ中なので、文化庁松井様から生の声をうかがえたのが大変よかった。それ以上に古橋様、松本様の切実たる思い、本音の語りに心打たれました。三者の立場で私達聴き手を意識しながらも、恐れず率直なご意見をいただけてうれしかったです。(官庁の方々はそのそれぞれの立場を超えないよう当たり障りなくお話しされることが多いので・・・)
- ・半场さんの自己紹介にあった社会教育と日本語教育の視点は、私も同じく非常に興味を持っている分野です。もっとその点のお話も今後深くお話できると良いと感じました。
- ・常に今の状況を改善しようという考え方を持つことが大事だと感じました。
- ・現在の日本の状況が良くわかりました。日本の地域の構成員として活躍出来る体制がまだまだであると改めて思いました。また、浜松市の取り組みは進んでいると感心しました。
- ・文化庁、浜松市、ナガイサの現在の日本語教育での活動がよく理解できた。
- ・とても勉強になりました。改めて数字で確認すると、おお～っと思うところも多々あり。グレイスさん、エバさん、マリさんの貴重なご意見、説得力がありました。ブラジルで1世から4世の方と触れ合う機会があ

りましたので文化庁の松井様のゆるやかに習得と言うお話、頷きながら聞いておりました。半場様の履歴書、優しさでいっぱいでした。

- ・地域日本語教育に携わる際は、日本語を教えることにこだわりすぎず、教育現場の背景や一人一人のニーズに合わせて、マインドを切り換える柔軟性を見につけたいと思いました。
- ・現在日本語教師養成講座に通っていますが、模擬授業、実習はほとんど日本語学校の留学生相手を想定したものです。生活者向けの模擬授業も、生活場面でのモデル会話をひたすら丸暗記させればよいという考えで、現実に即しているのか疑問に感じていました。本日のお話の中にもあったように、これから日本語教師の就職先として地域の日本語教育現場が定番になり、養成講座も地域の日本語教育にもっと目を向けるようになってほしいと感じました。
- ・ライフステージ・ライフサイクルに応じた長期スパンでの教育の考え方、困りごと解決機能を有した地域日本語教育のあり方など、マインドセットできる要素が多い内容だと感じました。
- ・フィリピンナガイサさん、浜松市の取組みをいえることができ共感しました。
- ・日本語教育の概要が、国、市、現場の立場からの話で、つかめた気がした。
- ・結婚を機に浜松市に定住し、外国の方とは多く関わる機会があります。多文化共生社会、友好、など興味があります。今、この歳で私ができることは何か、やれるかを考えさせて頂いた時間でした。留学生と地域教育は本当に違います。私にはどちらが合ってるのかも教えられました。ありがとうございました。
- ・前半はパソコンの都合で不参加でした。
- ・「ライフステージに寄り添う」への理解が深まりました。半場さんのライフステージのお話を伺って勇気を持つことができました。私は現在、職業として日本語教師を目指しています。前職は医療関係で職業として教育に携わったことはありません。そのことに負い目を感じていました。日本語ボランティア仲間は元学校教師や教員資格を持っている人が多いです。「学校で教えたこともないあなたに異業種のあなたに日本語教えられるの？あなたの専門の現場にお戻りになったら？」というボランティア仲間もいます。しかし、ライフステージに寄り添った日本語教育として考えた時、教育の経験がなくても寄り添うことは出来るし、私の職業経験も日本語支援に活かすことは出来る！私だから見えてくる日本語支援の景色はあるはず！多様な学習者さんが増えているなら、支援者も教師も多様な背景を持っている者になってもいいんじゃないか？今日はそんなふうに思えました。私は2019年から日本語学習支援ボランティアをさせてもらっています。日本語教育推進法が公布され、日本語教育が変化していく流れに乗りながら活動させてもらっています。「教師のマインドチェンジ」は色々な日本語教育の研修で耳にします。私は日本語教育推進法公布前の日本語教育については話に聞くだけで(文法積み上げなど)実際によく知りません。ですから「苦しいマインドチェンジ」をしなくても「これからの地域日本語教師」として日本語教師を目指していけることが私の強みだと思っています。
- ・地域日本語教室に必要なことを確認できた。
- ・フィリピンナガイサの活動歴など、参考になりました。発足が相互扶助であることは、やはり組織の強さに反映していると思いました。
- ・盛りだくさんの内容でした。画面の内容を把握する時間が少なくて残念でした。
- ・どの講師の方のお話もとても参考になりました。ありがとうございます。その中でも、「移民の人は、子供の教育に力を入れて、3世代で成功する例が多い。」という事実には納得しました。実際、私があった人たちも、子供は大学までやった、やりたいという人が多い。しかし、その夢を託された子供におおきなプレ

ッシャーになっているのも、また現実です。親が経験していない日本の学校にポンと入れられ、結局会話はできるが字を読む書くは困難、学校の授業についていけない子が多い。子供が日本の学校でついていくには、小学校前からの学習、心構えが必要だと知ってほしく、話してみても理解してもらうのはむずかしい。3世代で成功へと思えば、気長にやるしかないのだと改めて思いました。

- ・日本語ボランティアをまだした事ありませんが、現在ベトナム実習生やエンジニアの方々との関わりを持っております。ベトナム人が増えた事で、今までは日本での生活をするために日本語を学ぼうと思っていた人が減り、ベトナム人コミュニティの中で解決でき、日本語を学ぶ、地域や日本人との関わりが希薄になっている現状があります。良いこともあれば、問題が解決せず、ズレが生じたままのこともあるかと思えます。このままで良いのか？日本語を学ぶだけでなく、その人が必要な、もっと生活する希望や喜びが生まれることは出来ないか？と考えていた時にこの講演を知りました。日本語教育だけでなくその人に寄り添ったフィリピンナガイサさんの活動は、とてもヒントになりました。ありがとうございました。
- ・全国の状況の中、地域特性を踏まえた有意義なお話をいただきました。
- ・地域現場の日本語教育の実情、声、問題点や施策など、それぞれの立場からの視点でお聴きできて大変よかったと思います。
- ・とても良かったです。現場の声がすごく心に響きました。手を差し延べたい感情が湧きました。
- ・国や自治体の施策と今後の方向性がわかった。
- ・浜松市国際課、文化庁国語課、そしてフィリピンナガイサの方々より、それぞれのお立場を反映した話を伺うことができたことが良かったです。興味深く聞きました。地域日本語教育の在り方をあらためて考える機会になりました。(冒頭の半场さんが実践例を引きながら、「必要な学び、日本語学習の中で拾うポイント」が、個々の学習者によって異なることを話してくださったこと、松本さんの地域日本語教育に関わる方に向けてのマインドセットの話をされていたことが、特に印象に残りました)。
- ・日本語教育は困っている人のためではなく、地域の活力の向上(日本のメリット)のため、ということをはっきり言ってくださってよかったと思います。例えば女性とか子供とか高齢者とかのパワーをもっと生かさなければいけないということはすでに強く言われている中で、在住外国人もそのひとつのカテゴリーだということだと思います。そのためには、多様な日本語使用を尊重するという意識がもっと広く周知されるようになれば良いなと思います。日本人は国民性なのか自分たちが言語アレルギーがあるからなのか、日本語教育に対して一途すぎる感があると思う。「学びたい人」に対して「学んでいる人」が格段に少ないのは、従来の日本語教育のピントが合っていないからだと思うし、「しゃべれなくても生きていけるけれども、しゃべれたらもっといい」という実感を持たせることができないからだと思う。ニーズを掘り起こすことはとても大事でまた難しい点だと思うけれど、さらにこれからはライフステージ、ライフサイクルも視野に入れてそれらを考えていかなければいけないという点に強く共感しました。また、松井氏のお話の中で「徐々に統合していこうという緩やかな姿勢が大事」という点が、いい事おっしゃるなあと思いました。



(3)後半、「海外の移民教育、複言語・複文化主義についても知っておこう」はいかがでしたか。(回答 63 件)

よい 59

ふつう4

あまりよくない0

(4)後半の感想をお願いします。

- ・ドイツの具体例が興味深いです
- ・何ができるか、何をしたいか・・・とても印象に残りました。
- ・他県や他国と比べたデータがとてもわかりやすかったです。
- ・海外の移民政策参考になりました
- ・松岡先生のお話の仕方、情報の出し方、専門性、すべて大変参考になりました。
- ・海外の事例を知ることがなかったのととてもためになりました。ありがとうございました。
- ・少々能力の限界を感じました。
- ・具体的な事例をたくさん知ることができました。とくに、リュックサックプログラムに大変興味を持ちました。自分の地域でも似たようなことができるのではないかと感じました。
- ・非常に興味深く、勉強になりました。複言語複文化主義を推し進めるために、日本人側を含め、より外国籍市民が社会参画しやすい環境を整えていくこと、そして実際に体験学習で経験を積むことの重要性を知りました。そうした機会を私も創っていきたいと思います。
- ・海外の事例も具体的に教えていただけて、日本の地域日本語教室がどこを目指すのか、そして、日本社会がどう変わっていけるのか、考えさせられました。貴重な講義をありがとうございました。
- ・複言語・複文化主義の概念を知らなかったのです、有難うございます。
- ・ドイツ移民政策など知りたい情報だったので、とても良かったです。複言語、複文化主義の考え方、母国語の継承など、大事にしたい要素があり、収穫が多かったです。
- ・複言語・複文化は初めて知りましたが、言語以外の能力、資源もフルに使ってコミュニケーション取って行こうよ、という姿勢にととても共感します。ドイツの親を学校(幼稚園?)に呼んで別教室で子どもと同じことをするという試みで、家庭内で親子で共有できるが増えるだけでなく、先生が親に対しての理解が深まったとのこと、目から鱗でした。おそらく親から見ても、先生がとても近い存在になったことと思います。語学教育以外にも、地域でできることはたくさんある、という確信を得ました。どうもありがとうございました。防災の回も楽しみにしています。
- ・ドイツと韓国のサポートの手厚さを詳しく聞けて良かったです。日本でも政府主導で予算を付けてしっかりと考えて欲しいです。
- ・わかりやすい講義で、参考になりました。韓国、ドイツの最新の施策も聞けて良かったです。
- ・ドイツの事例はよく見聞しますが、韓国の事情は意識的に収集しないと知ることがないのでとても有益でした。また、「出来ることの積み重ね」という話は、とても現実的で、コストがかからない上に人間関係の構築にも資するものだと思います。こうした手触りのある取り組みの価値を見直すべきだとも思いますし、多くの人に見直してもらいたいと思います。

- ・別の団体で、CEFR の読み込みをしています。「寛容さ」と「歩み寄り」「自立を助ける心遣い」そして「自分の生活」をどう作っていくのか改めて考えさせられました。「防災」でもまたお話が伺えるとのこと、大変楽しみにしております。
- ・レジメがあったので、良かったです。ウサギの話等にたとえて分かり易かったです。ただ、日本は、元来多文化社会ではなかったもので、日本に來ている外国人は、うさぎ文化(日本文化)に触れて、学んでいるのでしょうかね。ライフステージ、その時々目的、目標、多様化しているので、きめ細やかに対応できるのは、相談できる機関、友人、場所との関係が築けることであると感じました。国レベル、地域レベル、個人レベル、それぞれの関わりが上手く機能することを願います。
- ・韓国やドイツの政策を詳しく知ることができました。これはさすがに国レベルで取り組まないと無理ですね。。。
- ・複言語複文化主義という言葉は初めて聞きました。松岡先生が仰っていましたアメリカ連邦局の進捗に関心を持ちました。災害に対して「防災弱者」である日本語に不自由な方を含む要配慮者に、どの様にこれから向き合うのかひとつの光が見えた気がします。
- ・松岡先生のお話はとても分かりやすく、楽しく聴講させていただきました。海外における言語教育について今まで聞いたことがなかったですが、自分でももう少し他国のことについて調べてみようと思いました。とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・複言語・複文化主義、大変勉強になりました。生活で使える日本語またその他の言語、自由に行き来しながらやっていこうと思いました。
- ・松岡先生のスライドがユニークで、複言語複文化主義について理解しやすかったです。教える際に文法事項や文法レベルばかりを重視するのではなく「できること」を重視することで、生活の中で本当に使える能力が身に付くと思いましたし、何より学習者も楽しんで学んでいけそうだと感じました。
- ・複言語複文化についてはよく聞いているが、動物を使った話しでさらに理解が深まった。ドイツの制度については、スイスに住む友人が研究していて本も出しているし、実際に話を聞いたことがあるが、日本語教育の面でみるとどうかという話が聞けてさらによくわかった。ここから日本での教室活動に生かせるかというヒントを最後にいただいたので、よく考えてみたいと思っている。また、今年は愛知県の日本語教室にアドバイスするコーディネーター派遣事業の事務局をしているので、生かせるといいと思った。
- ・まったくその通りだと考えます。まったくの同感です。外国ルーツの児童生徒、外国籍の方々なんでも持ち込める居場所づくりを計画しております。私が活動する東京都目黒区世田谷区では技能実習など特定技能の方は少ないのですが、それでも学校へ行かず平日昼間に家にいる、居場所がない外国ルーツの児童生徒、学生が 9000 名ほどいるそうです。びっくりしました。会の中で教育を受ける権利と義務、の話題がありましたが、日本国籍の有無にかかわらず義務教育を受ける義務は必要だと考えます。また、選挙権がないため、自分の貴重な一票にならないため政治家が動かない側面もあります。地方自治体選挙に外国籍の選挙権も早期必須だと考えます。定住者の課題に熱心な政治家に 1 票のインセンティブがある、これもありかと。
- ・普段活動の中で考えていた事が松岡先生の講義で多角的に講義をわかり易く他国の事例を 紹介していただきよく理解できた。そしてさらにこれからどう自分の教室で活動の重きを置くのが良いか見直すきっかけにもなりました。防災のお話もっと聞きたかったのもまた 11 月が楽しみです。

- ・私は日本の移民・難民受け入れしか考えたことがないので韓国・ドイツ等の国での受け入れ政策や現状を知ることができとても良かったです。
- ・地域の日本語ボランティアをしています。みんなの日本語テキストに沿って日本語を学んでもらうという事が最優先だと思っていましたが考え方を改める必要があるようです。今日の講義で学んだ事をボランティア活動で活かしたいと思います。
- ・松岡先生の話が具体的でかつわかりやすく、ためになった。
- ・沢山の経験と見聞・知識をシェアして頂きありがとうございました。とても分かりやすく楽しかったです。学生時代に松岡先生のような素敵な先生に出会いたかったなあと感じつつも、今日フィリピンナガイサ様から繋いで頂いたご縁に感謝致します。防災のお話、楽しみにしております。
- ・言語を正確に・完璧に使わなくてもよい、「できる」ことを認めて増やしていくという複言語・複文化主義の考え方は、地域で暮らす外国人にとっては心理的負担が少なく、合っている考え方だと思いました。私自身、4技能すべてを正確にこなせないと言語ができるとは言えない、と思っている部分があり、自分自身の「できる」ことを認められていなかったなど気づかされました。これから複言語・複文化能力を鍛えていきたいと思います。
- ・複言語・複文化主義の話を背景に、地域日本語教育で考えるべきこと、やるべきことを体系的に学べたと感じています。
- ・複言語複文化や海外での事例から、今後の活動の参考にしたいと思っています。
- ・頭から日本語を教えるシステムのみ、というのではなく、生活者としての交流を通して、歩み寄りといったイメージを受けた。学習者をただ日本語を身につけさせる存在ではないということを、肝に銘じて実践していきたい。
- ・すみません。16時に退出しました。残念でした。
- ・複文化複言語というのは興味ある考えだと思います。環境は違いますが私がインドネシアにいた時多文化多言語でしたがそのような暮らし方を**市っ**と思います。(原文ママ)
- ・複言語主義複文化主義について考えるきっかけとなりました。「社会が寛容になる」本当にそうってほしい、自分も人に対して「寛容」でありたい…。日本社会は日本人の私であっても「皆と違う生き方」をしているとなんとなく生きにくいと感じます。松岡先生のおっしゃっていた移民の方々に対して「石橋をたたき壊して渡らない」そうだと思います。個人的には「石橋があることに気づかないふりをして渡らない」も当てはまるような…。そんな空気に気づいている者が日本社会に出来ること…日々模索しています。「外国人労働者が増えたら日本人の働くところがなくなるじゃない」と身近な人に言われます。そのたびに上手く伝えられない自分を目の当たりにしたり…。でも、技能実習生がいるからスーパーに毎日野菜は並ぶし、治一郎のバーンクーヘンを私達が美味しく食べられるのも外国人労働者の方々のおかげなんだと、まずは知っていることを周りに伝えていく…。複言語複文化主義、「できる」ことを「認めて増やす」まずは日本語支援者として外国の人の近くにいる私達がモデルとなって実践していく!! 松岡先生のお人柄に今日は元気をもらいました!次回の講義でもお会いできるとのことで楽しみにしています。
- ・情報量も多く、とても興味深い話を聞くことができた。特に韓国や、ドイツの政策についてはなかなか聞くこともないのでためになった。
- ・初耳の複言語、複文化主義は、多言語、多文化主義の言い換えかな、と当初は思いましたが、よりフレキシブルで寛容で人間関係を繋ぐ思考ですね。インドのちょっと進歩的な知人の家庭等で標準語で公用語

のヒンドゥー語、出身地のパンジャブ語、そして公用語の英語が混合して話されている状況が思い出されました。彼らは話題にフィットした言語を 3 言語から、その時々で自然に取っ替え引っ替えして会話している感じでした。その後、日本女性が嫁ぎ子供も成長していますから、日本語も加わっているのかも。相互理解に資すれば何語の混合でも受容できるのでしょうか。地域の日本語教室はミニ日本語学校であることを、所属する教師や学習支援者、学習者も正道との思い込みがつよく、教師も学習支援ボランティアも先生で居られる立場に自己満足や執着が強いケースが多々見られる。それ故、JLPT に執着が強まる。JLPT は効果を確認しやすく、特に教える側にも自己満足を満たす。私は地域日本語教室は多様で自由で良いと常々思っていて、JLPT 的なカリキュラムも地域日本語教室の個別対応等では、一つの部分的エレメントとして対応もありますが、地域日本語教室の全体像としては、複言語、複文化主義が地域日本語教室のコンセプトとしてフィットするものとして賛同します。

- ・松岡先生の豊富なデータと率直なご意見を拝聴し、大変勉強になりました。福言語・福文化主義に大変興味を持ちました。じっくり学べるデータ、文献等があったら教えていただけたらうれしいです。ありがとうございました。
- ・ほかの国の実情など、知ることができ、勉強になりました。どこの国も少子高齢化などで、移民必要性、そしてそれによる共生のむずかしさ、感じました。でも、対策は必ずあると信じて、考えていきたいと思えます。
- ・リュックサックプログラム とっても興味があります。まだ日本語ボランティアではありませんが、関わり方のヒントを頂きました。もっと文献を読み考えて行きたいと思います。
- ・とにかくユニーク。鳥獣戯画みたいなパワポも Good でした。またお話を伺いたいです。
- ・移民教育から複言語・文化などの知識を、専門家からの解説や適切なアドバイスや今後の方向性などをお聴きでき、大変勉強になりました。
- ・経験に基づいてためになりました。
- ・多文化共生はかなり前から聞く言葉ですが、実際に行っていることは、地域での日本語教育を通した同化政策になっていると思います。複文化主義こそが本当に外国人の文化を尊重するものだと思いました。
- ・複言語・複文化主義という考えを学べたこと、韓国とドイツの移民教育の事例を知れたことが良かったです。ドイツの事例について言及される中で、行動の結果が見えるようにというお話がありました。大事なご指摘であると受け止めました。そしてその際、学習者一人一人が、地域日本語教育にどのような価値や結果を求めているかという観点も合わせて考慮していくことについて、考えさせられました。
- ・ポイントは「日本語レベルで活動を決めるのではない」という松岡先生のメッセージに尽きると思います。ただし、それが一過性の体験に終わらないことが大事で、そこが一番難しいところだろうなと思います。行動中心主義・現場主義の活動に、自律的な日本語学習をどれだけプラスできるか工夫が必要だと思います。昨今、個人レベルでのインターネット文化が急激に拡大していることや、コロナ禍でオンラインの活動が身近になったことは、かえっていい影響を与えるのではないかと思います。



(5)皆様の団体が目標としている、または最も注力している習得レベルを、JLPT の区分で教えてください。(回答 42 件)

N5…2

N4…17

N3…16

N2…3

N1…4

(6)講座を受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まりましたか。

深まった 49

まあまあ深まった 14

深まらなかった0

わからない0

(7)講座を受けて、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。(日本語ボランティアをしたことがない人のみお答えください)(回答 24 件)

はい 23

いいえ1